



## 千本木家住宅

新里町野地区は江戸時代から「野村」と呼ばれ、明治22年（1889）に野村を含む11ヶ村が合併して「新里村」が誕生した。南北に長い新里地区にあって、野は最も南に当たる地区である。

この田園風景の広がる自然豊かな地に「千本木家住宅」がある。広大な敷地と屋敷林、木造三階建ての威容を誇り、その規模の大きさに誰もが目を疑う。木造瓦葺の総二階に小ぶりの三階が載る。骨太の構造に均整のとれた姿が美しい建物である。

千本木家は由緒ある旧家、村議会議長を何人も輩出した家柄である。この家を守るのが千本木美知子さん。昭和9年から11年にかけて美知子さんの祖父が建てたもの。祖父は和歌や仏画、仏像彫刻などを嗜み、多彩な才能の持ち主で、家の設計も自らが手掛けた。

一階玄関をくぐると広い土間、六畳、八畳、十畳の部屋が連なる居住部分、裏手には使用人の部屋もあった。二階はかつて蚕室として使われ、養蚕農家の趣もある。「しばらく足を踏み入れていない」という三階は六畳ほどの広さといい、何のために造ったのかは定かでない。

千本木家から県道を挟んで、群馬県指定天然記念物「野の大クスノキ」がある。根廻り8.7メートル、高さは20メートルにおよび、県内最大級の古木である。ここに立つと風格にあふれた「千本木住宅」とクスノキを同時に見ることができる。農村の暮らしと自然の移り変わりが凝縮され、桐生にあることを誇りに思える風景である。



所在地 桐生市新里町野36-1  
所有者 千本木 美知子